





審査結果報告書

2020年 1月 28日

主査 氏名	東條 美奈子	
副査 氏名	今井 忠則	
副査 氏名	神谷 健太郎	
副査 氏名	石坂 郁代	

1. 申請者氏名 : DM16034 渡邊 孝明
2. 論文テーマ :
Clinical utility in assessing perceived mobility difficulty among ambulatory patients undergoing hemodialysis
(血液透析患者における移動動作時の困難感評価指標の臨床的有用性)

3. 論文審査結果 :

慢性腎臓病患者の身体機能評価は、その後の生活の質の低下や生命予後の悪化を予測する有用な指標とされており、臨床現場で簡便に測定できる指標や、それを推測するための主観的な指標の開発が求められている。

申請者は日常生活活動（ADL）評価において動作時の主観的な困難感（difficulty）に着目し、移動動作時の困難感と身体機能や生命予後との関連を明らかにした。研究1では、歩行による移動動作が自立している血液透析患者を対象に、移動動作時の困難感を調査し、これを規定する因子を明らかにした。研究2においては、さらに縦断調査を実施し、移動動作時の困難感と生命予後（死亡率）との関連を明らかにした。

研究は論理的に組み立てられており、研究手法には統計的あるいは倫理的な問題は認められず、研究領域に関する知識は深く、研究結果についても十分な考察がなされている。学位論文の一部はすでに英語論文として採択され、すでに Renal Replacement Therapy (2018)4:8 に発表されている。

学位審査におけるプレゼンテーションは、適切に要点がまとめられており、審査担当者が理解できるよう、わかりやすく説明する工夫がなされていた。研究の限界や今後の発展に関する考えについても述べられており、主査・副査からの質疑についても適切に答えた。

上記の結果より、主査・副査の4名の意見は全員一致し、本申請論文が博士課程の学位論文にふさわしいと判断した。